



No. 10 Maseqobela(マセコベラ)

敷地はさほど広くなく、傾斜地であるため、施設配置に制限がある。敷地内に広い校庭を確保できないが、近隣のスポーツグラウンドを使用できる。



No. 11 Legele(レケレ)

近隣住民が燃料として売るためのユーカリが植林されており、先方負担により伐採撤去する必要がある。敷地内にドオンガと呼ばれる大きな侵食があるため、土地利用に制限がある。



No. 12 Mabote(マボテ)

人口が多く、インフラも整備された地域で、学校の需要度も高い。ほぼ平坦な土地である。隣接してスポーツグラウンドがある。



No. 13 Ha Ntjabane(ハンチャバネ)

敷地は開発地域内に住宅用にプロット区画された地域の一角にあり、人口増加が見込まれている。傾斜地ではあるが、すでに造成されている。



No. 14 Ha Mpiti(ハンピティ)

緩やかな谷をはさんだ両側に広がる敷地である。谷の下部には湧水があり、近隣住民はこの水を生活用水としている。敷地中央の大きな2本の木が児童たちの憩いの場となると思われる。



No. 15 Mahlabatheng(マハバテン)

傾斜のきつい敷地で施設の配置計画に制限がある。平坦な校庭は望めないが児童の遊び場には困らない広い土地である。



No. 16 Semphetenyane(センペティニャネ)
比較的平坦な敷地であり敷地内に既存のスポーツグラウンドがある。



No. 17 Abia(アビア)
マセル市街地に隣接する新しい住宅地域である。インフラが整備された平坦な敷地である。広さも十分あり学校建設に良好な条件を有している。



No. 18 Tsolo(ツオロ)
人口の増加が見込まれる開発地域内のほぼ平坦な敷地である。広くはないが、平らな校庭を確保できる。敷地の中央を斜めに電線が走っているため、これをさけた施設配置とする。



No. 19 Lenono(レノノ)
近くに貯水池があるため、レソトでは珍しい緑豊かな土地である。ほぼ平坦な敷地であるが、敷地北側にドオンガ(侵食)があるため土地利用に制限がある。



No. 20 Lancers Gap(ランサーズギャップ)
唯一の既存校(コミュニティスクール)であるが、本計画では政府学校として建設される。既存の2教室(1棟)は、継続使用する。平坦な敷地である。